

「韻律から見た現代中国語白話書面語(論説体)の特徴」 初 探

三 瀧 正 道

初めに

中国との経済活動が活発に行われるとともに、ビジネス用言語として、英語以外に“商务汉语”「ビジネス中国語」の重要性が日増しに高まっている。中国は世界に向けて孔子学院を展開して中国語及び中国文化の普及に努めており、国務院直属の漢語基地が全国十数か所の大学に設置されているが、その中で、北京対外貿易大学と上海財経大学にビジネス漢語基地が設けられていることはあまり知られていない。

この両大学ビジネス漢語基地は、世界に向けてビジネス中国語を普及させるために積極的にその開発に取り組んでおり、そのための国際会議もここ数年、継続して開催されている。北京対外貿易大学では、既にBCT(ビジネス中国語検定試験)を開発、日本でも実施しているが、その一方でビジネス中国語の領域の確定は今なおはなはだ曖昧であり、これが、教育方法や教材整備の上での障害になっている。

その根本的な原因は、既に文法体系がほぼ確立されている現代中国語口頭語に対し、現代中国語白話書面語の研究がほぼ手つかずの状態にあることが挙げられる。例えば、現在市販されている一般の文法書で現代中国語の口頭語と書面語の文法上の違いをきちんと体系的に説明している書は皆無に等しく、テキスト上ではなおさらである。

辞書はどうかというと、中国で出版された辞書にしる、日本で出版された辞書にしる、凡例を見ると、それなりに書面語を区別して説明しようという意図は垣間見られる。しかし、それらを個々に検討すると、厳密な検討が行われたというには程遠く、かなり恣意的であるとの観を否めないし、基準も異なり、統一性も欠いている^(注1)。

本稿では、以上の前提から、“商务汉语”を厳密に規定する前段階の基本作業として、現代中国語白話書面語について考察を進めることとする。

一般に“商务汉语”と言う場合、概ね二つの領域に分けられる。ビジネス活動に関わる話し言葉、即ちビジネ

ス会話と、ビジネス活動に関わる書き言葉、即ち書面語である。市販のテキスト類はすべてほぼこの2種類に大別される。その中でビジネス活動に関わる書面語は現代漢語書面語を構成する一領域であり、したがって、“商务汉语书面語”の教材を作成しようとするれば、必然的に現代漢語書面語の“語体結構”を明らかにする必要がある。

現代白話書面語に対する関心は1980年代以降、朱德熙らによって漸く提起され、その後、現代白話書面語を新しい正式な“語体”として捉えようとする学者が出現、陶紅印ら数人の学者がその理論化に挑んだ。近年、特にここ数年、中国ではこの方面の研究に参画し、著書・論文を発表する学者が増加している(末尾にその代表的な著書を記載)。とは言え、まだ研究は端緒に就いたばかりであり、特に日本では、先行研究と言える成果は寂寥々たるものがある。何より、白話書面語という語彙の示す範囲が依然として曖昧で、例えば、小説には会話が豊富に含まれているし、ネット上の情報にも、話し言葉で書かれた“微博”・“微信”等が存在する。

そういった中で、“商务汉语书面語”「商用文」や法律文書・報道文などは白話書面語の中心的存在であり、それゆえ、われわれはまずこれらの文章の特徴研究に精力を集中し、その成果を以て“商务汉语”教育の発展に資するべきであろう。

筆者は過去30年間、人民日報を材料に新聞上の文章を研究し、これを「論説体」と呼ぶことにした。「論説体」と“商务汉语书面語”はビジネス活動で常用される一部の専門的な語彙や慣用表現を除くと、ほぼ同一の文章形式と言ってよく、また、現代白話書面語という新しい正式な“語体”に属する文として両者を比較すると、「論説体」は“商务汉语书面語”に比べ普遍性を備えていると同時に、明らかにその基盤を構成している。言い換えれば、“商务汉语”も法律の条文も「論説体」をベースに構築されたやや特殊な専門領域であり、それゆえ、まず「論説体」の特徴研究を行い、それを通して“商务汉语”の教育メソッドを確立していくべきだと考える次

第である。

1. 白話書面語と韻律

白話書面語の特徴については、目下、その研究に取り掛かっている学者が中国で徐々に増えている。その主要なテーマは韻律である。

白話書面語が成立した経緯は文言の束縛から逃れることであった。20世紀初頭、中国が世界に立ち遅れ、列強に蹂躪された要因の一つとして、教育が普及せず、大衆の啓蒙が進まなかったことが挙げられ、胡適などを中心に識字運動が起こり、様々な発音表記が研究され、また、平易な文章を広め、大衆のレベルアップを図ろうという白話運動が展開されたことは周知の事実である。

しかし、その後100年近くの時を経ると、白話書面語は「格調高い書面語を」という欲求に常に晒され、一部の文言的要素が徐々に白話書面語に取り入れられ、それにつれて韻律も重視されるようになってきた。

だからと言って、韻律重視がすべからず文言の影響によるものだと考えるのは事実とそぐわない。白話書面語の特徴の一つに文言の影響があるのは事実だが、それとは別に現代口頭語と区別するために培われた要素があることを忘れてはならない。孟子敏は「政府工作报告的语言考察」のなかで、「こういったニーズに応えるため、白話書面語では2音節が重視されている」として、1997年から2011年までの3人の首相の「政府工作报告」>253500余字中、特殊語彙を除いた5910個の語彙において2音節語が4413個と全体の約75%を占めていることを挙げた^(注2)。

文言が重視するのは単音節語であり、文言の2音節化は六朝時代に発展した小説類と関係が深い。この点については、既に1955年に呂叔湘が「相字偏指释例」、見字之指代作用」などの論文で指摘している^(注3)。日本でもかつて吉川幸次郎が「世説新語の文章」^(注4)などでこの点を指摘し、筆者も関連研究を発表したことがある^(注5)。

文言の2音節化は当時の口頭語との接近を示したもののだが、現代白話書面語の2音節化は、2音節語を用いて独立した韻律語を構成し、それによって口頭語と異なる新しい“語体”を完成させようという試みである。

「論説体」の韻律の特徴は主としてその音節のリズムにある。この点について馮勝利は以下のように説明している^(注6)。

“韻律是人们说话时表现出来的轻重、缓急、节奏等超语音现象”

“汉语里介于字和句子之间的那个中级单位就是“韵律词”

“韵律词是由音步决定的。不满一个音步的单音节词或单音语素要成为韵律词，须再加上一个音节”

即ち、そこには“韻素→音节→音步→韵律词”という

4つの段階がある。

“语素A加上语素B后、形式相同、性质不一、从韵律角度看「AB」是一个音步、从构词角度看「AB」是个复合词。复合词必须首先是一个韵律词”

まさに「論説体」の特徴を的確に説明していると言える。この点から、論説体常用の4字句も一種の複合韻律詞と見なすことが可能になる。

2. 偶数化を実現するツール

「論説体」の中には偶数化を実現する多くの道具立てを見つけることができるが、その中には2つの異なる種類のツールがある。

ある種のツールは専ら偶数化を趣旨とするもので、他種のツールは、偶数化が主要な役割ではないが、結果として時に偶数化の役割を担うツールである。

前者に属する例の一つが単音節程度副詞の2音節化である。

例：“极为”、“最为”、“稍为”、“大为”、“尤为”など。

これらの例は“为”を用いて2音節化した程度副詞を2音節の形容詞と組み合わせ、4音節の複合韻律詞を構成する（以下の例は全て人民日報による）。

(1) 印度同日本的贸易逆差大为缩小。

「日本に対するインドの貿易赤字は大いに縮小した」

(2) 亚洲市场的发展领域极为广阔。

「アジア市場の発展領域は極めて広い」

(3) 亚洲地区的恐怖主义活动尤为猖獗。

「アジア地域のテロ活動はとりわけ活発だ」

(4) 辽河流域是我国水污染危害最为严重的地区。

「遼河流域は我が国で水の汚染が最も深刻な地域だ」

副詞“相”も似たような働きをする。“与～相V”と言う構造において、動詞はその多くが単音節であり、“相”と結びついて2音節となる。

例：“相关”、“相近”、“相连”、“相左”など。

(5) 商品做为商品的标志，与市场经济紧密相连。

「商品は商品のマークとして市場経済と密接に関連している」

(6) 轻工业主要是消费品工业，与人民的生活息息相关。

「軽工業は主に消費物資工業であり、人々の生活と切っても切れない関係にある」

(7) 日本政府刺激经济复苏的作法与过去相近。

「日本政府の景気回復刺激策は過去と大差ない」

後者に属する例が“而”である。“而”は本来“连词”として用いられる。

(8) 当今世界仍处在深刻而复杂的变化中，和平与发展是当今世界面临的主要问题。

「現在の世界は依然として深く複雑な変化の中であり、平和と発展は現在の世界が直面する主要な問題である」

(9) 激光医学是近年来医学与现代科学技术相结合而发展起来的一门新兴学科。

「レーザー医学は近年、医学と現代科学技術が結びついて発展した新しい学問分野である」

しかし、時には2音節を構成する材料としても用いられる。

例：“进而”、“然而”、“偶而”、“因而”、“从而”など。

(10) 獅子，在中国人看来是吉祥的动物，因而自古以来中国人在喜庆的日子里就有舞獅的传统。

「獅子は中国人にとってめでたい動物で、そこで、古来より、中国人はおめでたい日には獅子舞を踊る伝統がある」

(11) 減少財政赤字，不仅可以改善经济前景而且将降低通货膨胀的危险，从而增强了美元证券的吸引力。

「財政赤字を減らすことは、経済見通しを改善できるだけでなく、インフレの危険を減らし、それによってドル証券の吸引力を強化した」

また、4字句を構成する材料にもなる。

例：“随之而来”、“背道而驰”、“自然而然”、“视而不见”など。

(12) 如果中国停止向美国出口，其他国家就会取而代之。

「もし中国がアメリカへの輸出を停止すれば、他の国がそれに取って代わるだろう」

(13) 大城市中，近些年应运而生产许多健身场所。

「大都市においては、近年、機運に乗じて多くのトレーニングジムが誕生している」

口頭語における一部の2音節副詞は単音節語に変化した後、単音節動詞と併用されて2音節を構成する。

例：“已经”→“已”、“大约”→“约”、“一共”→“共”、“仍然”→“仍”。

動詞“有”と併用されると、

例：“已有”、“约有”、“共有”、“仍有”

などとなる。

(14) 目前入侵我国的外来生物约有400多种。

「目下、我が国に侵入する外来生物はおよそ400種余りある」

(15) 中东和平进程仍有大量工作要做。

「中東和平のプロセスにはまだ多くのやらねばならないことがある」

(16) 自1996年以来，我国共有1.7万多农民从公开选拔考试中脱颖而出，成为国家公务员。

「1996年以来、我が国では、合計1万7千人余りの農民が公開の選抜試験で頭角を現し、国家公務員になった」

但し、これらの単音節副詞は2音節動詞と併用されることも珍しくなく、したがって、その主たる役割が動詞と併用されて2音節を構成することであるとは言えない。意図的あるいは無意識的に単音節動詞と併用され、結果として2音節リズムの獲得に貢献しているに過ぎない。

(17) 去年在欧洲共缴获4700公斤海洛因。

「去年、ヨーロッパで、合計4700kgのヘロインが押収された」

しかし、以下のような例もある。

(18) 人类所渴望的和平与发展仍面临着严峻的挑战。

「人類が渴望している平和と発展は依然として厳しい試練に直面している」

この文では、“着”が併用されることで“仍面临着”と4音節のリズムになる。但し、“着”は完全轻声であり、“重念”、“轻念”の概念を導入すれば、リズムとしてカウントするか、意見が分かれる。したがって、これらの語が単音節動詞と併用されるときにどんな条件が設定されるのかについてはなお研究を要する。

前述の如く、“为”は単音節程度副詞と結合したときには完全に前者に属したが、動詞の結果補語に使われた時は後者に属する。単音節動詞の結果補語に使用された時は、その文に2音節のリズムを提供することができる。この場合は一種の複合動詞、即ち離合詞として認識されることもある。

(19) 冷战期间，美苏在核武器的竞赛和较量被称为“眼珠对着眼珠”的对抗。

「冷戦期間、核兵器における米ソの角逐は“目には目を”の張合いと称されていた」

(20) 人们习惯称特区为窗口，这寓意很明白，让外国人通过特区看中国，让中国人通过特区看世界。

「人々は、経済特別区を窓口と呼び慣れていた。その意味は明らかで、外国人に特区を通して中国を見、中国人に特区を通して世界を見てもらおうというものだった」

しかし、このような“为”はまた、2音節動詞と結合して3音節になる場合もあり、その場合は明らかに2音節化のニーズに逆行する。この点について孟子敏は前述の調査のなかで、

“许多三音节词语原来可以分析为2+1或者1+2的形式，也就是说这一部分词语是由一个双音节词语和一个单音节词语或语素构成”

と述べている。もし、2音節動詞と結合して、なおかつ偶数のリズムを追求したい時には、“成为”を2音節動詞の後ろに用いて4字句を構成する。

(21) 旅游业发展成为本省经济的尖端行业。

「観光業はわが省の経済の先端産業に発展した」

(22) 越南芽庄市努力建设成为现代化文明城市。

「ベトナムのニャチャン市は近代的な文明都市建設に力を注いでいる」

3. 文の構造からみた2音節化

白話書面語の文法上の独特の構造の一つが「V₁+和+V₂+O」形式である。この構造は口頭語にはない。

(23) 人能够分辨和记忆约一万种不同的气味。

「人はおよそ1万種の異なるにおいをかぎ分け、記憶することができる」

この構造では、“和”の他にも、並列を示す語や評点符号が使われる。

例：“并”、“或”、“、”など。

(24) 我们要理解并珍视传统留给我们的宝贵财富。

「我々は、伝統が我々に残した貴重な財産を理解し、大事にしなければならない」

(25) 多年来，范县法院重视、关心离退休老干部们的离岗生活。

「長年にわたり、範県の裁判所は定年退職した老幹部の余生を重視し、気遣っている」

この形式は動詞に限らない。副詞や形容詞にも適用される。

(26) 如果医生不处理，她可能或肯定会死。

「もし、医者が処置を施さなかったら、彼女は多分、或はきっと死んでいただろう」

(27) 在英国，小费的问题麻烦和复杂。

「イギリスでは、チップの問題が面倒臭く、また煩雑だ」

ただし、何らかのツールで結び付けられるこれら2つの動詞・副詞・形容詞はいずれも2音節語であることが必須条件で、単音節語をこの形式に用いることはできない。このことから、白話書面語が2音節のリズムを尊ぶことが窺われる。

(28) 很多人利用网络买进和卖出股票。

「多くの人がネットで株の売買をしている」

上記の理由から、次の文は成り立たない。

*很多人利用网络买和卖股票。

似たような事例をもう一つ挙げよう。

(29) 核安全问题关系到核能的科学利用和发展。

「核の安全問題は核エネルギーの科学的な利用及び発展に関わる」

(30) 马航客机失联事件发生后，中方及时就搜救工作提供全力帮助与合作。

「マレーシア航空機の失踪事件が発生した後、中国側は搜索活動に全面的な援助と協力を提供している」

この2つの文では、2つの名詞を“和”や“与”で結び付け、(29)では、その前に“科学”を、(30)では、その前に“全力”を置いて、それぞれ“利用”と“发展”を、また、“帮助”と“合作”を修飾させている。

(31) 历史和国际经验表明，无论是扩大就业还是提高收入，都需要一定的经济增速做为支撑。

「就職の拡大であろうと収入の増加であろうと、いずれも一定の経済成長スピードが支えとなる必要があることは、歴史上、また国際上の経験が証明している」

この文では、“经验”は“历史”とも、また、“国际”

とも結合している。

更に例を挙げると、

(32) 高度重视并认真解决农业、农村和农民问题，是我们党一贯的战略思想。

「農業問題・農村問題・農民問題を非常に重視し、真剣に解決することは、我が党の一貫した戦略思想である」

この中の“农业、农村和农民问题”と言う言い回しでは、“问题”は“农业”、“农村”、“农民”の3つとそれぞれ結び付いている。これらの構造に見られる2音節のリズムも研究の対象になりうるだろう。

偶数のリズムは3音節のリズムを補うこともできる。

例えば、“于”は白話書面語の特徴の一つとして常用される語である。この“于”と結びついた三音節の表現はいたるところに存在する。

例：“莫过于”、“有助于”、“得益于”、“取决于”、“相当于”、“防患于”、“致力于”、“无愧于”など。

表面的にみると、この事実は白話書面語の偶数化のニーズに適合しない、と判断されるが、ではなぜその存在が許容されるのだろうか。上述の孟子敏の解釈は一つの説明になるが、筆者は更に以下の調査を行ってみた。

2007-2011年の人民日報から随意に抽出した7800のセンテンスについて行った調査（以下、「調査」で表示）の結果を見てみよう。

その中で“于”を用いた構造は約1400ヶ所、その“于”に導かれた後置成分は、2音節46%、4音節22%、6音節8%、8音節6%で、偶数が82%を占めた。

(33) 天下事之繁，莫过于行政。

「世の中、面倒と言って行政に勝るものはない」

(34) 吃苹果皮有助于预防癌症。

「リンゴの皮を食べるとガンの予防に効果がある」

(35) 周黄村的变化，得益于乡村清洁工程。

「周黄村の変化は農村クリーンプロジェクトのお蔭である」

その他の18%の内、12%は具体的な年月日（たとえば“1978年”など）で、奇数は6%に過ぎなかった。この数字は、前述の孟子敏の報告の数字とほぼ一致する。

以上の調査から、“于”と結びついてできた三音節は孟子敏の指摘に止まらず、更にその不安定をこれらの偶数部分で補っていると考えられる。

4. “地”と“的”

白話書面語のもう一つの特徴は構造助詞を極力用いたがらないことである。それはとりわけ“地”と“的”において顕著にみられる。口頭語のなかでは構造助詞と結びつきやすい一部の語が白話書面語のなかでは結合したくない。それによって偶数のリズムが保てることにな

る。この例は枚挙に暇がない。

例えば、“長期”、“根本”、“基本”、“科学”などは構造助詞を伴わないことがすでに定着しており、直接に動詞や名詞を修飾する。その一方で、“积极”、“努力”、“逐渐”などは、“地”や“的”を使うか否かがかなり恣意的である。

(36) 对世界遗产要严格保护, 统一管理, 科学规划, 持续利用。

「世界遺産については、厳格に保護し、統一して管理し、科学的にプランを立て、持続的に利用しなければならない」

(37) 各国政府应该积极地推动对话。

「各国政府は積極的に対話を進めるべきである」

(38) 发展电力工业, 就要积极开拓电力市场。

「電力工業を発展させるには、電力市場を積極的に開拓しなければならない」

「調査」の範囲では、“积极”は189例あるが、その中で“地”や“的”と結合した例は約10%ほど、“地”との結合例は4例に過ぎない。

“的”をなるべく用いない傾向は特に顕著である。「調査」でチェックした16-24文字の2400センテンスの中で、構造助詞“的”を含む例は約40%あったが、1センテンスに2つの“的”を含む例は1%前後に過ぎない。36-44文字の1800センテンスの中では構造助詞“的”を含む例は約50%あり、1センテンスに2つの“的”を含むセンテンスがそのうち80%ほどを占めた。

上記の数字から我々は一つの仮説を導き出すことができる。中国人が白話書面語を書くときには「“的”の使用は少ないほどよく、多くても平均して20文字に1つ程度が許容範囲」というある種の感覚があるようだ。

我々外国人は、白話書面語に接する時、よく“的”が無いことで意味が分かりづらい文章に出くわす。この事実は、リズムを重んじる為に往々にして“的”が省略されることで生じる結果と言えるだろう。例えば、日本人学生の多くが次のような表現に出くわすと呆然自失する。

“邓小平关于建设有中国特色社会主义理论”

直訳すると、

「中国の特色を有する社会主義を建設することに関する鄧小平の理論」となる。

“所”はある動詞が限定語として他の名詞を修飾するときしばしば動詞に被せて用いられる。その場合、通常は[“所”+V+“的”+N]となる。しかし、もし動詞が1音節で、修飾される名詞が2音節だと、“所”と動詞で2音節なので、リズムを重んじる場合にしばしば“的”を省略して4文字のリズムにしようとする。

(39) 几乎所有的干部职工都随身携带着袖珍收音机。

「ほとんどすべての幹部や従業員がみなトランジスタラジオを携帯していた」

この(39)の文では、“的”が省略されていない。こ

れは非常に示唆的である。筆者が、“所有干部”で捉えるのではなく、“几乎所有”と“干部职工”をそれぞれ4音節として捉え、“的”は軽声であるため、韻律から除外していることが窺われる。

(40) 2004年, 上海所有超市将有偿供应塑料袋。

「2004年、上海の全てのスーパーが有料でビニール袋を提供することになる」

(41) 西班牙能源资源不足, 所需能源 80% 多要靠进口。

「スペインはエネルギー源が不足しており、必要なエネルギー源の80%あまりを輸入に頼らなければならない」

“所”はまた、4文字を構成する材料としてもしばしば用いられる。

(42) 谋求和平与稳定是非洲人民最大的利益所在。

「平和と安定を希求することはアジア人民にとって最も大きな利益になる」

(43) 近几个月来, 以色列的经济增长有所减弱。

「ここ数カ月、イスラエルの経済成長はいくらか衰えている」

(44) 近几年来, 公益事业得到了前所未有的振兴和发展。

「ここ数年、公益事業は未曾有の振興と発展を遂げている」

5. 結語

盛んになりつつある白話書面語の語法研究は今後、多方面からの考察が進むであろう。韻律の問題はその一部に過ぎないが、欠くことのできない重要な一部分でもある。

白話書面語の語法研究には、大いに重視すべき別の側面もある。これについて孫徳金は融合度という観点から重要な指摘をしている^(註7)。すなわち、

高融合度: 无可替代。(以A为B) (—分之—)

中融合度: 存在基本对应的形式, 但受各种因素的影响, 二者间呈互补关系。

介词“以”和“用”, “于”和“在”, 被动结构“为—所—”和“被—所—”

低融合度: A系统的某个语言成分偶现于B系统中。

(“乎”“矣”) - 不承认为现代书面汉语系统中的成分。

高融合度の要素はそのまま白話書面語の重要な成分と認定できる。分析が必要なのは中融合度の要素である。例を挙げよう。

“跟”、“和”、“同”、“与”はいずれも介詞であり、連詞でもある。介詞か連詞かという分類から見れば“跟”と“同”は共通の特徴を有しており、どちらも主として介詞として用いられ、連詞としての例は実際にはごくわずかである。これに対し、“和”と“与”の共通

の特徴は介詞と連詞の使用例がほぼ拮抗していることだ。

一方、口頭語か書面語かという分類から見ると、“跟”と“和”には口頭語で常用されるという共通の特徴があり、“同”と“与”にも書面語でしか使われないという共通の特徴がある。ただ、“和”は比較的に自由で、口頭語であろうと書面語であろうと自由に使用されている。書面語は同一センテンスのなかで同じ単語を重複して使用することを修辭的に嫌う傾向が強い。それゆえ、同じセンテンスのなかで“和”と“同”を併用する現象がしばしば見られる。

中融合度の例は多い。

例：“特别是”と“尤其是”／“一起”と“一道”／“把”と“将”／“在”と“当”／“是”と“为”／“到”と“至”／“说”と“称”／

白話書面語の研究が中国で盛んになってはいるが、翻って日本ではどうかと言うと、ほとんど無視されていると言ってよいだろう。前述の如く日本で出版されている主な文法解説書にはその記載がほとんど見受けられないばかりか、学会での発表論文にもほぼ見当たらない。中には、論文中で口頭語の例文と書面語の例文を混在させたままの分析さえ散見される。換言すれば、白話書面語の研究に関しては、日本の学会は少なくとも中国に20年は遅れを取っていると言って過言ではない。このような状況は早急に是正されるべきであろう。

(注1) 三瀧正道「現代中国語新聞体と文語文法」、『中国研究』第4号、麗澤大学中国語研究会（1995年）P 101

(注2) 孟子敏〈政府工作报告的语言考察〉、冯胜利主编《汉语书面语的历史与现状》北京大学出版社

（2013年）第1章P 15

(注3) 呂叔湘「相字偏指釋例」（1942年）、「見字之指代作用」（1943年）、『汉语语法论文集』科学出版社（1955年）所収

(注4) 吉川幸次郎「世説新語の文章」（1939年）、東方学報京都第10冊第2分、吉川幸次郎全集第7巻筑摩書房（1974年）所収

(注5) 三瀧正道「魏晉六朝に置ける“見”“相”“為”に付いて」、麗澤大學紀要第22巻（1976年）P 25

(注6) 冯胜利《汉语的韵律、词法与句法》北京大学出版社（1997年）第一章及び冯胜利《汉语韵律句法学》上海教育出版社（2000年）第二章参照

(注7) 孫德金〈现代汉语书面语中文言语法成分的界定问题〉、冯胜利主编《汉语书面语的历史与现状》北京大学出版社（2013年）P 50

参考文献

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』東方書店（2010年）

黄梅《现代汉语嵌偶单音词的韵律句法研究》北京语言大学出版社（2012年）

孙德金《现代书面语中的文言语法成分研究》商务印书馆（2012年）

柯航《现代汉语单双音节搭配研究》商务印书馆（2012年）
郑立华、叶剑如《企业中的书面语研究 - 兼论书写语言学》外语教学与研究出版社（2013年）

冯胜利主编《汉语书面语的历史与现状》北京大学出版社（2013年）

张瑞朋《现代汉语书面语中跨标点句句法关系约束条件的研究》（2013年）